

医学獣医学総合研究科 自己点検・評価報告書

設置(又は改組実施)年度：平成22年度

平成27年3月

宮崎大学医学獣医学総合研究科

【目次】

第1章	平成22年度設置又は改組の目的と経緯	3
第2章	沿革・設置目的及びミッション	3
第3章	ミッションを実現する活動状況	4
第4章	活動状況の自己点検評価	5
第5章	設置又は改組による成果	23

第1章 平成22年度設置又は改組の目的と経緯

医学部においては、医学科のみからなる教育研究体制では動物実験に関わる課題などを中心に、解決が難しい課題を抱えている。一方、農学部獣医学科では、平成22年4月から山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）の構成大学として多くの実績を上げてはいるものの、このような形態では、本学の特色を發揮し、地域に密着した大学院の教育研究を展開することは極めて困難な状況にある。このような博士課程が抱える諸問題の解決と、人獣共通感染症等に関する現在の大学院教育のさらなる充実化を図ることを目的として、医学と獣医学の極めて密接な学問的背景とこれまでの連携・協力の実績を踏まえて、医学と獣医学が融合した大学院医学獣医学総合研究科を設置した。

第2章 沿革・設置目的及びミッション

第1節. 沿革及び設置目的

医学及び獣医学分野の融合した教育・研究を行うことを目的として、平成22年4月、国内で唯一の医学獣医学総合研究科（博士課程）を設置した。また、平成26年4月に修士課程を設置した。

第2節. ミッション

1. 教育研究等の目的・目標及び養成する人材

本研究科は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、学術文化の継承発展に貢献することを目的とし、医学・獣医学に関する広範な知識に基づいた総合的判断力及び高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する国際的に通用する医学・獣医学研究者並びに高度な研究マインドに裏打ちされた質の高い指導的臨床医及び獣医師を養成することを目的とする。

2. 医学獣医学総合研究科のミッション（強みや特色、社会的責任）及び活動の特色・特徴

○教育

医学獣医学総合研究科は全国唯一の医学と獣医学が完全に融合した研究科であり、他大学にも見られる様な単に医学と獣医学の協働研究を意図するものでは無く、教育、地域・国際貢献あるいは管理運営すべてを共同で行うものである。そのため、双方向からの融合した実質的教育が実施され、例えば人獣共通感染症においては、人（医学が対象）および家畜などの動物（獣医学が対象）を医学と獣医学の立場から教授できるようになっている。このような医学と獣医学が融合した教育を通して、複眼的視野を有した指導能力のある人材を養成する。また国外からの留学生の受け入れ実績や若手頭脳循環プロジェクトの実績等を活かし、グローバルに活躍できる人材を育成する。

○研究

これまでの21世紀COEプログラムでの医学と獣医学の融合実績やペプチド研究やゲノム研究等による多数の共同論文（Nature 他）の発表実績を活かし、特色ある世界レベルの先端的な研究を推進する。また医学の先進的な医療技術を獣医学へ提供し、獣医学の高度な動物実験を医学に提供するなど双方向で技術提供の実績や、小動物から大中実験動物まですべての動物を扱える実験施設を利用し、基礎から臨床へのトランスレーショナルリサーチの展開を推進する。

○地域社会・国際貢献

医学獣医学総合研究科の教員をベースに設置した産業動物防疫リサーチセンターによる感染症防止の国際シンポジウムの実績やJICAプロジェクトなどの実績を活かし、社会・国際貢献を推進する。また、フロンティア科学総合実験施設や産業動物教育研究センター等の地域との共同利用実験施設等による地域貢献を推進する。加えて「宮崎県独自の周産期医療ネットワークを基盤とする多面的研究体制の構築と発達期脳障害の病態解明の推進」事業や口蹄疫復興プロジェクトに

よる産業動物復興支援事業の実績、東九州メディカルバレー事業等の実績を活かし、地域貢献を推進する。

○学びなおし

医学獣医学総合研究科では、医学・獣医学の分野で活躍している社会人を多く受け入れている実績を活かし、学びなおしを推進する。また、長期履修制度の実績や週末（土、日）での講義実績を活かして、社会人が通常より余裕を持って履修し、大学院を修了できるように配慮する。さらに、公開講座や研修などを通して社会人の学びなおしを推進する。

第3章. ミッションを実現する活動状況

○教育・学びなおし

本研究科の特徴として国内で唯一の完全に医学と獣医学とが融合した研究科ということから、その特色を活かすためにそれぞれに属する教員が連携して学生を指導する体制をとっている。

また、医学部・農学部獣医学科の教員間の連携を強化するために、ファカルティ・ディベロップメントとして、互いの研究分野の発表を全6回実施し392名が参加した。このことから各研究室の研究分野を周知し、交流を深めることができたといえる。

さらに、両所属の教員がそれぞれスーパーバイザーとして助言を与えつつ、学生自らが運営して、研究発表及び討論する科目（サイエンスコミュニケーション特論）等も設けている。

その他に、研究指導及び学位論文の作成指導については、基本方針を学務規則及び規程等で定め、複数教員による指導体制を整備し、学術研究分野の融合の特色を生かして、異なる分野の教員が協働して複数で学生の研究指導や論文作成指導にあたっている。学生にとっては多面的に指導が受けられるとともに、新たな視点から研究を発展できるメリットがあると考えられる。

社会人の学びなおしという点においては、入学した社会人学生のために長期履修、夜間履修制度を設けている。具体的には、社会人入学生のほとんどが夜間履修生であることを配慮し夜間履修生用の時間割を組み、学生が勤務と両立できるよう対応している。

講義は基本的に土日に開講し、全て撮影しDVDに保存することで、勤務等で講義に出席できなかった学生に対してDVDによる補講ができるよう準備している。平成24年度からは、臨床医として勤める学生が勤務後講義に出席できるよう、臨床医を対象とする高度臨床医育成コースの研究科目「研究特論（高度臨床医育成コース）」を、土日開講から平日夕方の開講へ変更し学生のニーズを把握し改善を行った。

また、国際社会への貢献を視野に入れた人材育成のため、学生に対してサイエンスコミュニケーション特論において、英語で研究の進捗状況を発表させるとともに、国際会議での発表を推奨している。同時に、留学生を積極的に受入れる体制を整備することでサイエンスコミュニケーション特論が国際的な観点からも異なる学修歴をもつ学生の中で互いに切磋琢磨しながら自らの能力を磨く機会となっている。

○研究

平成22年度に文部科学省特別経費「医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクト」が採択され、平成22年度から平成24年度は22件、平成25～26年度は20件の医学獣医学共同サブプロジェクトを実施した。

また、平成25年5月10日に「医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクトシンポジウム」、平成27年2月13日に宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 設立5周年記念シンポジウムを開催し、広く学内外の参加者に研究内容・研究成果について紹介した。

○地域社会・国際貢献

シンポジウム、セミナー等をとおして様々な社会連携・社会貢献・国際貢献活動の実施に研究科の教員が協力しており、十分に教育・研究成果等を社会へ還元し、産学官連携についても継続

的に推進しているといえる。

第4章. 活動状況の自己点検評価

第1節. 教育活動

1. 自己点検評価

分析項目1. 教育活動の状況

1-1. 教育実施体制

①教育組織編成とその工夫

医学獣医学総合研究科（博士課程）は、平成22年4月に我が国初の医学と獣医学が完全に融合した研究科として設置され、医学獣医学専攻の1専攻（学生定員23名）の中に「高度臨床医育成コース」、「高度獣医師育成コース」、「研究者育成コース」の3つのコースワークを設定している。

（資料1）

本研究科を担当する専任教員は、設置における申請時の資格審査で承認された教員である。専任教員数についても、大学院設置基準、専門職大学院設置基準及び文部科学省告示「専門職大学院に関し必要な事項について定める件」に定められた専任教員数が確保されており、平成25年5月1日時点で研究指導教員76名及び研究指導補助教員11名の専任教員が在籍し、医学部医学科の教員と農学部獣医学科の教員が連携して教育・研究を行っている。

また、学生の支援にあたる教務関係職員として、医学部の学生支援課及び農学部の教務・学生支援係（大学院担当）に関係職員が配置され教員と連携して学生に対する支援業務を行っている。

（資料2）

(資料1) 研究科の年度毎の現員表
【平成22年度】

専攻 Courses	入学定員 Target number per year	総定員 Target total number	現員 Present numbers					
				1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	計 Total
高度臨床医育成コース	23	23	男 Male	8	—	—	—	8
			女 Female	2	—	—	—	2
高度獣医師育成コース			男 Male	2	—	—	—	2
			女 Female	3	—	—	—	3
研究者育成コース			男 Male	9	—	—	—	9
			女 Female	5	—	—	—	5
計 Total	23	23		29	—	—	—	29

【平成23年度】

専攻 Courses	入学定員 Target number per year	総定員 Target total number	現員 Present numbers					
				1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	計 Total
高度臨床医育成コース	23	46	男 Male	2	7	—	—	9
			女 Female	1	2	—	—	3
高度獣医師育成コース			男 Male	0	1	—	—	1
			女 Female	1	3	—	—	4
研究者育成コース			男 Male	13	8	—	—	21
			女 Female	11	4	—	—	15
計 Total	23	46		28	25	—	—	53

【平成24年度】

専攻 Courses	入学定員 Target number per year	総定員 Target total number	現員 Present numbers					
				1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	計 Total
高度臨床医育成コース	23	69	男 Male	6	3	4	—	13
			女 Female	3	1	2	—	6
高度獣医師育成コース			男 Male	2	0	1	—	3
			女 Female	0	0	3	—	3
研究者育成コース			男 Male	9	14	7	—	30
			女 Female	5	10	3	—	18
計 Total	23	69		25	28	20	—	73

【平成 25 年度】

専攻 Courses	入学定員 Target number per year	総定員 Target total number	現員 Present numbers					
				1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	計 Total
高度臨床医育成コース	23	92	男 Male	5	6	4	2	17
			女 Female	3	2	1	2	8
高度獣医師育成コース			男 Male	2	2	1	0	5
			女 Female	1	0	0	3	4
研究者育成コース			男 Male	11	10	12	6	39
			女 Female	10	6	10	2	28
計 Total	23	92		32	26	28	15	101

(資料 2) 教務関係職員の配置状況

平成 26 年 5 月 1 日

学部等 職種	課長	次長	係長	主任	一般職員		合計
					常勤	非常勤	
医学部 学生支援課	1	1	4	1	5	4	16
農学部 教務・学生支援係	0	0	2	0	2	2	6

※有期契約職員及び再雇用職員は非常勤に含む

(出典：人事課作成資料)

②入学者選抜方法の工夫とその効果

本研究では、教育理念及び目的等に基づいて、「求める学生像」をアドミッション・ポリシー（資料 3）として示し、入学者選抜を実施のうえ学生を受入れている。（資料 4）

アドミッション・ポリシーは、大学ウェブサイト、入学者選抜要項に掲載し周知している。

また、アドミッション・ポリシーの周知度について、平成 26 年度の研究科新入生へアンケート調査を実施したところ、73.3%の新入生が「知っている。」と回答し、多くの新入生へ周知が図られたことが確認できた。

(資料 3) 医学獣医学総合研究科のアドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシー

1. 教育理念（教育理念・目標、育成する人材像）

本専攻の使命は、医学・獣医学の発展と社会の福祉の向上に寄与することです。各コースでは、以下を備えた人材を育成します。

1. 高度臨床医育成コース

高度の専門性が必要とされる医療業務に必要な診断・治療技術と高い倫理観に裏打ちされた専門性、医学、獣医学、その他の生物学に関する幅広い基礎知識とそれに裏打ちされた医療情勢の変化に対応する能力、動物実験などの臨床研究遂行に必要な知識と経験や人獣共通感染症に関する幅広い知識等に裏打ちされた研究能力を有する高度専門職業人としての臨床医を育成する。

2. 高度獣医師育成コース

伴侶動物や産業動物の健康を管理するために必要な高度な診断技術と治療法及び研究能力を身につけた獣医師及び指導的獣医師、また、食肉衛生、家畜衛生及び公衆衛生関係で働く獣医師に対して指導できる高度獣医師を育成する。

3. 研究者育成コース

医学、獣医学及び他の生物学的研究に関する幅広い基礎知識、様々な基礎研究の遂行に必要な動物実験等の知識と実験手技、自立した研究者として様々な情勢の変化に対応しながら研究を進める能力を有し、医学、獣医学及び両分野に関連した研究領域で国際的に活躍できる研究者を育成する。

2. 入学者受け入れ方針（求める人材像）

本専攻は、高度専門職業人としての医師、獣医師及び研究者・教育者の養成を主眼とし、医学・獣医学の分野において自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とします。

したがって、本専攻では、次のような人材を求めています。

1. 高度臨床医育成コース

医学、獣医学を含めた生物学的研究に関する幅広い基礎知識を基盤とした優れた研究能力をもちつつ、日進月歩の勢いで発展する医科学に対しても的確に対応できる能力、さらには崇高な倫理観に裏打ちされた高度な臨床的専門性を持った指導的臨床医を志す人材（医師）を求めます。

2. 高度獣医師育成コース

すでに獣医師として現場で活躍しつつ、より高度な専門技術と研究能力を身につけたいという明確な目的意識を有する人材、あるいは産業動物獣医師の指導に当たる農業共済組合等や家畜衛生、公衆衛生関係の官公庁に所属し指導的獣医師として活躍したい人材を求めます。新規卒業生においては、学部教育で培われた知識や技術をさらに発展させ、より高度な専門性を求めるモチベーションの高い人材を求めます。

3. 研究者育成コース

幅広い基礎知識や社会変化に対応する能力を有して自立した研究者として、医学、獣医学、及び両分野に関連した研究領域で国際的に活躍する研究者及び教育者を志す人材を求めます。本コースでは、医学部、獣医学部を卒業した者だけでなく、歯学・薬学部を卒業した学生や、他の研究分野の修士課程修了者など他分野で培った専門能力を基盤として、生命科学分野での学際的研究を開拓し、将来、人々の福祉と健康増進に寄与することを志す人材も積極的に受け入れます。

3. 入学者選抜の基本方針

1. 求める学生像に沿って、受験者のアカデミックバックグラウンドやキャリアを参考にしつつ、受験者が希望する研究テーマや目標、本修士課程修了後に目指すもの等を考慮し、総合的に選抜します。

2. 客観的で透明性のある方法によって、公平に選抜します。

(資料4) 平成22年度～平成25年度の学生受入れ

【平成22年度】

専攻 Courses	年度 Year	志願者数 Numbers of Applicants			入学者数 Number Enrolled		
		男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
高度臨床医育成コース	平成22年度 2010	7	2	9	8	2	10
高度獣医師育成コース	平成22年度 2010	2	3	5	2	3	5
研究者育成コース	平成22年度 2010	10	5	15	9	5	14

【平成23年度】

専攻 Courses	年度 Year	志願者数 Numbers of Applicants			入学者数 Number Enrolled		
		男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
高度臨床医育成コース	平成23年度 2011	1	1	2	1	1	2
高度獣医師育成コース	平成23年度 2011	0	1	1	0	1	1
研究者育成コース	平成23年度 2011	13	10	23	12	10	22

【平成24年度】

専攻 Courses	年度 Year	志願者数 Numbers of Applicants			入学者数 Number Enrolled		
		男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
高度臨床医育成コース	平成24年度 2012	6	4	10	5	3	8
高度獣医師育成コース	平成24年度 2012	3	0	3	2	0	2
研究者育成コース	平成24年度 2012	11	4	15	9	4	13

【平成25年度】

専攻 Courses	年度 Year	志願者数 Numbers of Applicants			入学者数 Number Enrolled		
		男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
高度臨床医育成コース	平成25年度 2013	4	2	6	4	2	6
高度獣医師育成コース	平成25年度 2013	2	1	3	2	1	3
研究者育成コース	平成25年度 2013	11	11	22	11	10	21

③教育の質の改善・向上を図るための取組

本研究科では教育に関するPDCAサイクルを整え、自己点検・評価の実施組織を整備し、継続的な自己点検評価及び教育改善を行っている。(別添資料1 医学獣医学総合研究科における自己点検・評価の実施組織、責任体制)。

具体的に、第2期中期目標・中期計画による年度計画の実施状況を検証し、その結果は毎年度、自己評価報告書として取りまとめ、学内外に公表している。

また、自己点検・評価の具体的な検証事例として、臨床現場で勤務する医師である大学院生が休日に講義へ出席することの負担が大きいとのことから、臨床医を対象とした高度臨床医育成コースの講義を、土日開講から、平日夕方開講に変更したことがあげられる。

さらに、大学教育委員会の下にあるFD専門委員会と各学部・研究科とが情報を共有しながらファカルティ・ディベロップメントを企画・実施しており、本研究科においては、医学部・農学部獣医学科との学部間交流を目的とし、互いの研究分野の発表を全6回実施し392名が参加した。このことから各研究室の研究分野を周知し、交流を深めることができたといえる。

その他に、事務職員など教育支援者の研修については、本学が企画する初任者研修、職階別研修、業務別研修、語学研修等に積極的に参加し、資質の向上を図っている。

1-2. 教育内容・方法

①体系的な教育課程の編成状況

本研究科では、カリキュラム・ポリシー（資料5）に基づき、基本的・基礎的な知識に関する講義から始めて、次に各分野における先端的な理論、研究方法及び研究技能を修得するながらとなり体系的な教育課程を構築している。その体系性はカリキュラムマトリックスを作成して点検している。

また、本研究科の教育課程の特徴は、医学・獣医学の連携融合した研究の基盤となる科目として「研究基盤科目」とコースごとの「研究科目」、「特別研究科目」及び「研究指導科目」でカリキュラムを構成している点が挙げられる。全授業科目のうち、研究基盤科目10単位、各コースの研究科目2単位、特別研究科目12単位及び研究指導科目6単位の計30単位以上を修得することになっている（別添資料2 大学院研究科の教育の目的と体系性）。

（資料5）医学獣医学総合研究科のカリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

本研究科は、医学・獣医学の連携・融合した研究の基盤となる科目として「研究基盤科目」とコース毎の「研究科目」、「特別研究科目」、「研究指導科目」でカリキュラムを構成しています。

1. 高度臨床医育成コース

本コースでは、複数指導体制の下で、症例検討会に参加し、症例研究、臨床研究を行い、学会発表、論文作成を行い、各分野別の臨床研究を自立して遂行し得る能力を修得することを到達目標とする。

- ・研究科目では、臨床研究を遂行するために必要な基礎知識を体系的に修得するとともに、ヒト由来検体を扱う際に生じる倫理問題について学ぶ。
- ・特別研究科目では、各専門分野で臨床研究を遂行するために必要な基礎知識を修得させる。
- ・研究指導科目では、疾病の成因、新しい安全な診断・検査・治療法の開発・評価、臨床疫学など、患者に対する診療を通じた臨床研究のテーマを課し、博士論文作成のための研究指導を行う。
- ・研究科目及び特別研究科目では、各医学専門学会での専門医資格取得を視野に入れた診断・治療技術を修得させる。

2. 高度獣医師育成コース

本コースでは、複数指導体制の下で、獣医診療において専門性の高い診断・治療技術を修得し高度な研究マインドを有する指導的獣医師の育成を目的とする。本コースは、獣医診療に軸足を置いた他に類を見ない特色あるコースとする。

- ・研究科目では、学部教育よりも専門的に高度に細分化した教育（獣医周産期特論、牛の脂質代謝障害特論、獣医循環器学、食中毒特論など）と医学関係の先端的画像診断学や麻酔学などを取り入れた実践的教育を実施する。

- ・特別研究科目では、各専門分野で臨床研究を遂行するために必要な基礎知識を修得させる。
- ・研究指導科目では、それぞれの専門分野における研究のテーマを課し、博士論文作成のための研究指導を行う。

3. 研究者育成コース

本コースでは、複数指導体制の下で実験・研究を行うとともに、ラボセミナーに参加するほか、学会発表、論文作成を行い、先端的な医学・獣医学の研究を自立して遂行し得る能力を修得することを到達目標とする。

- ・研究科目では、医学・獣医学分野での研究を遂行するために必要な知識を体系的に修得させる。
- ・特別研究科目では、自立した研究者に求められる資質や能力とともに、各専門分野で研究を遂行するために必要な基礎知識や実験手技を修得させる。
- ・研究指導科目では、それぞれの専門分野における研究のテーマを課し、博士論文作成のための研究指導を行う。

②学生のニーズ及び社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

学生からの多様なニーズに応えるため、入学した社会人学生のために長期履修、夜間履修制度を設けている。具体的には、社会人入学生のほとんどが夜間履修生であることを配慮し夜間履修生用の時間割を組み、学生が勤務と両立できるよう対応している。(資料6)

また、臨床現場で勤務する医師である大学院生が休日に講義へ出席することの負担が大きいことから、臨床医を対象とした高度臨床医育成コースの講義を、土日開講から、平日夕方開講に変更するなど、学生のニーズを把握し改善を行っている。

その他に、授業科目へ学術の発展動向を反映させるため、先端的医学獣医学特論という授業において、医学及び獣医学の分野での著名な講師を招き、最新の研究データや最先端技術に触れ合う機会を設けた、「医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクト」及び「高度な技術と指導性を有する家畜衛生・家畜臨床獣医師育成事業」で、先端的な学術動向に対応しかつ異なったバックグラウンドを持つ学生ニーズや医及び獣医社会からの多様な要請の高い専門家育成教育も行っている。

(資料6) 各年度の入学者における夜間開講制度及び長期履修制度の活用状況

	平成 22 年度				平成 23 年度				平成 24 年度				平成 25 年度			
	社会人入学生数	用者数	夜間開講制度利用者数	長期履修講制度利用者数	社会人入学生数	用者数	夜間開講制度利用者数	長期履修講制度利用者数	社会人入学生数	用者数	夜間開講制度利用者数	長期履修講制度利用者数	社会人入学生数	用者数	夜間開講制度利用者数	長期履修講制度利用者数
医学獣医学総合研究科	21	21	14	13	13	13	2	16	16	7	19	15	6			
社会人入学生数に対する割合 (%)		100	66		100	15		100	43		78	31				

③養成人材像に応じた教育方法や自主的学習を促す教育指導方法の工夫

本研究科では、大学の教育理念と教育目標に基づき、教育目的に沿ってディプロマ・ポリシーを定めている。(資料7) ディプロマ・ポリシーはカリキュラムマトリックスを作成して点検し、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーとの整合性を考慮して策定している。

また、作成要領に基づきシラバスを作成し、冊子体の配付やウェブサイトを通して学生へ周知

している。(資料8) シラバスの活用状況について学生アンケートで確認したところ、履修計画の確認に活用している割合が高かった。(資料9) シラバスの充実度については、「そう思う」「ある程度そう思う」が合わせて97.4%であることから、十分な内容のシラバスを提供できていると判断できる。(資料10)

(資料7) 医学獣医学総合研究科のディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシー

本研究科に本学の規定する修業年限以上在学し、指導教員の指導の下、所定の単位を修得し、下記の各コースが目標とする専門研究者としての能力を身につけたことが確認され、かつ、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を与える。

博士としての能力

1. 高度臨床医育成コース

- ・高い倫理観を有する専門性の高い診断・治療技術に裏打ちされた高度な研究マインドを持った指導的臨床医としての能力
- ・臨床と研究をバランスよく経験することにより、双方を兼ね備えた高度臨床医としての能力

【学位】博士（医学）

2. 高度獣医師育成コース

- ・獣医診療において、獣医学の診断・検査法、治療法、手術方式を学び、その手法を履修することで、専門性の高い診断・治療技術を修得し、高度な研究マインドを有する指導的獣医師としての能力

【学位】博士（獣医学）

3. 研究者育成コース

- ・国際的に活躍できる医学・獣医学の教育研究を担う能力
- ・医学・獣医学の両分野にまたがる幅広い専門知識と、研究に必要な実験のデザイン等の研究遂行能力

【学位】博士（医学）又は博士（獣医学）

(資料8) シラバスの作成状況

研究科	シラバス作成状況					
	H24年度			平成25年度		
	科目数	登録数	割合(%)	科目数	登録数	割合(%)
医学獣医学総合研究科	115	115	100.0%	117	117	100.0%
計	669	575	85.9%	662	662	100.0%

(出典：シラバスシステム)

(資料9) 学生アンケートによるシラバスの活用状況

研究科	回答数	シラバスの活用状況（複数回答可）			
		履修計画	授業の準備	成績評価	オフィスアワー
医学獣医総合研究科	39	29	10	13	2
計	39	29	10	13	2

(出典：平成25年度後期にアンケート実施)

(資料 10) 学生アンケートによるシラバスの充実度

研究科	項目	シラバスの充実度	
		学生数	割合(%)
医学獣医総合研究科	そう思う	18	97.4%
	ある程度そう思う	20	
	あまりそう思わない	1	2.6%
	そう思わない	0	
	小計	39	

(出典：平成 25 年度後期にアンケート実施)

なお、本研究科の様な異分野融合型研究科においては、異なった専門性を持つ教員による教育及び研究指導を行う体制を整え、多角的な視野を持つ高度専門職業人の育成ができる教育方法及び学習指導法を採用している。(資料 11)

講義は基本的に土日に開講し、全て撮影し DVD に保存することで、勤務等で講義に出席できなかった学生に対して DVD による補講ができるよう準備している。平成 24 年度からは、臨床医として勤める学生が勤務後講義に出席できるよう、臨床医を対象とする高度臨床医育成コースの研究科目「研究特論（高度臨床医育成コース）」を、土日開講から平日夕方の開講とした。

また、本研究科の特徴として国内で唯一の完全に医学と獣医学とが融合した研究科ということから、その特色を活かすためにそれぞれに属する教員が連携して学生を指導する体制をとっている。例えば、両所属の教員がそれぞれスーパーバイザーとして助言を与えつつ、学生自らが運営して、研究発表及び討論する科目（サイエンスコミュニケーション特論）等も設けている。

その他に、研究指導及び学位論文の作成指導については、基本方針を学務規則及び規程等で定め、複数教員による指導体制を整備し、学術研究分野の融合の特色を生かして、異なる分野の教員が協働して複数で学生の研究指導や論文作成指導にあたっている。学生にとっては多面的に指導が受けられるとともに、新たな視点から研究を発展できるメリットがあると考えられる。

論文の審査に当たっては、研究指導及び学位論文の作成指導を行う教員に他の教員を追加して論文審査体制を整え、厳密な審査と最終試験を実施している。

なお、成績評価基準等の周知方法等については、新入生オリエンテーションにおいて、履修案内を配布し、授業科目の履修方法や成績評価基準等を説明、シラバスに成績評価基準や到達目標を明記したうえで、授業科目の最初の授業でもシラバスを配布するなどして学生に周知している。

(資料 11) 授業区分ごとに利用する学習指導法を分類した表

研究科	専攻	授業区分	科目数	少人数 (10 名程度)		双方向型		フィールド型		メディア活用	
				科目数	割合 (%)	科目数	割合 (%)	科目数	割合 (%)	科目数	割合 (%)
医学獣医総合研究科	医学獣医学専攻	講義	9	3	33	1	11	0	0	0	0
		演習	99	99	100	99	100	37	37	0	0
		実習	1	1	100	1	100	1	100	0	0
		演習・実習	3	3	100	3	100	3	100	0	0

注：網掛けは、緑色 20～39%、黄色 40～59%、橙色 60～79%、ローズ 80～100%を示す。

④国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

本研究科は、留学生も多数在籍することから、平成 22 年度の設置当初から、授業でのスライド等の教材に英語での表記も加えている。また、講義についても英語での説明も必要に応じて取り入れる様、教員に周知している。

また、国際社会への貢献を視野に入れた人材育成のため、学生に対してサイエンスコミュニケーション特論において、英語で研究の進捗状況を発表させるとともに、国際会議での発表を推奨

している。同時に、留学生を積極的に受入れる体制を整備することでサイエンスコミュニケーション特論が国際的な観点からも異なる学修歴をもつ学生の中で互いに切磋琢磨しながら自らの能力を磨く機会となっている。

その他に、選択科目（修了要件に含めない科目）として、論文作成科目を設定することにより、英語での研究成果発表能力の強化を計っている。

分析項目 2. 教育成果の状況

2-1. 学業の成果

①履修・修了状況から判断される学習成果の状況

最近5年間の修了状況は（資料12）に示すように、修了割合が低い。これは、学生に占める社会人学生及び留学生の割合が高く、仕事や家庭の事情で長期履修制度を利用したり、休学したりする学生の数が多いためである。

（資料12）学士課程及び大学院課程での入学者数に対する卒業・修了率の推移

大学院課程		入学年度	H19	H20	H21	H22	H23
医学獣医学総合研究科	入学者数					29	25
	標準修業年限修了率					20.7%	
	×1.5年内修了率						

②資格取得、学外試験受験結果、学会発表・論文、受賞・表彰等から判断される学習成果の状況

本研究科における、学生の学会発表及び論文投稿状況は（資料13）のとおりであり、在学者数の半数以上が学会で発表を行っており、20%~30%の学生が論文を投稿していることが分かる。

（資料13）大学院課程での学生の学会発表及び論文投稿状況の推移

課程	年度	在学者数	学会発表		論文投稿	
			総件数	件数/人	総件数	件数/人
博士課程	平成21年度	—	—	—	—	—
	平成22年度	29	15	51.7%	8	27.6%
	平成23年度	53	33	62.3%	16	30.2%
	平成24年度	73	42	57.5%	15	20.5%

（出典：学部・研究科への調査結果）

③学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

本研究科においては、授業の目標に対する到達度、理解度、教員の授業に対する準備及び授業の満足度に関してアンケートを実施しており、各項目の「そう思う」「ある程度そう思う」の合計が80%以上であり満足度等が高いといえる。（資料14）。

（資料14）学生による授業評価アンケート結果

研究科	質問項目（教育の成果）	回答	備考
医学獣医学総合研究科	講義はよく準備なされていたか	92%	H24 実施
	研究に対する意欲が刺激されたか	81%	
	講義でああなたの知識が増えたか	86%	

2-2. 進路・就職の状況

①進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況

本研究科の学生については、大学院生のほとんどは既に職業を有しているか、留学生については母国に帰国後、就職を行う者がほとんどであり就職支援の必要性は低い、学生からの相談があれば随時、相談にのり支援を行っている。（資料15）

(資料15) 大学院課程修了生の就職状況の推移

修了年度		H21	H22	H23	H24	H25
医学獣医学総合研究科	修了者(学位取得者)総数	—	—	—	—	6
	就職希望者数	—	—	—	—	4
	就職率(専門関連分野)	—	—	—	—	100.0%
	就職率(全体)	—	—	—	—	
	博士課程進学者総数	—	—	—	—	—
	博士課程進学率	—	—	—	—	—

分析項目3. 学生支援の状況と成果

①履修・学習の支援の状況と成果

学生からの多様なニーズに応えるため、入学した社会人学生のために長期履修、夜間履修制度を設けている。具体的には、社会人入学生のほとんどが夜間履修生であることを配慮し夜間履修生用の時間割を組み、学生が勤務と両立できるよう対応している。

また、講義は基本的に土日に開講し、全て撮影しDVDに保存することで、勤務等で講義に出席できなかった学生に対してDVDによる補講ができるよう準備している。

さらに、臨床現場で勤務する医師である大学院生が休日に講義へ出席することの負担が大きいことから、臨床医を対象とした高度臨床医育成コースの講義を、土日開講から、平日夕方開講に変更するなど、学生のニーズを把握し改善を行っている。

②学生生活の支援の状況と成果

研究科学生については、TA、RAの従事を推奨しており、TAにより教育経験を、RAにより幅広い実験等の経験を積ませ、実践力の育成に努めている。学生の報告書から、TAが教育的機能訓練になっていることが認められている。

③就職支援の状況と成果

修了または修了予定の学生については、いずれも職業を有しており修了後は勤務を継続することが通常である。職業を有していない学生がいた場合は、本人から修了後の予定について聞き取りを行うなどの対応を行っている。大学院生の殆どは既に職業を有しているか、または母国に帰国後就職を行う者がほとんどであるが、学生からの相談があれば随時、支援を行っている。

第2節. 研究活動

1. 自己点検評価

分析項目1. 研究活動とその成果の状況

①研究支援状況

医学獣医学総合研究科では研究及び助成金申請に関する問い合わせなどは医学部総務課、受託・共同研究については医学部管理課で対応し研究支援組織としての役割を担っている。

具体的には研究助成の案内を医学部ポータルサイトに掲載し応募を促進し、提出された申請様式等については、総務係でチェックを行い書類の不備を未然に防ぐなど、事務的にも支援を行っている。

なお、研究支援及び推進のための企画・立案については、医学系及び獣医学系の教授を構成員とする医学獣医学総合研究科運営委員会で定期的に審議を行っている。

研究者の研究環境を整備・充実する取組みとして、フロンティア科学実験総合センター、産学・地域連携センターと共同で、大学共通利用機器リストを作成し、共有機器利用の環境整備を行い、必要に応じて計画的に共同利用設備の更新を進めてきた。

さらに、平成25年度には、農学部内に産業動物教育研究センターが設置され、学部生、大学院生、留学生(研修生)などの教育・研究の他に、JA共済、農業団体、宮崎県獣医師会、宮崎県(農政水産部、畜産新生推進局 他)などの関係機関や個人病院などとの共同研究や研修・卒後教育、あるいは産業動物の疾病の臨床診断・治療などに利用することが可能となり、研究環境の充実につながった。

また、大学院生の研究支援として、医学及び獣医学分野において先駆的研究を行っている国内

外の研究者を講師として招き「大学院特別セミナー」を毎年度開催し、医学及び獣医学分野の知識を深め、研究の進展に役立てている。予算面においても、戦略重点経費の大学院枠を活用して、平成24年度及び平成25年度に大学院生各1名の研究支援を行った。

②研究推進状況

平成22年度に日本学術振興会（頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム）「人獣共通感染症および越境感染症制圧のための研究・人材育成ネットワークの構築」が採択され、実施組織として「人獣共通感染症・越境感染症研究ユニット」を研究科内に設置し、平成22年度から24年度にかけて准教授1名を、ニューヨーク大学（アメリカ）及び英国動物衛生研究所（パーブライト研究所）に助教1名を、コペンハーゲン大学（デンマーク）に大学院生1名をパーブライト研究所及び全北大学校（韓国）に、大学院生1名をトゥールーズ大学（フランス）に派遣し、人材育成ネットワークの構築と人材育成及び国際共同研究を推進した。

さらに、本学の重点領域の一つである「生命」に関しては、文部科学省特別経費「医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクト」－動物実験の有効活用を核とした基礎・橋渡し・臨床研究のスパイラル展開によるヒト・動物疾患に対する予防・診断・治療法の開発と人材育成－が平成22年度に採択され、平成22年度から平成24年度は22件、平成25～26年度は20件の医学獣医学共同サブプロジェクトを実施し、研究科の特色ある研究を推進している。事業内容と研究成果については、本事業のウェブサイトで公開している。（資料16）

このプロジェクトに関しては、平成25年5月10日に「医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクトシンポジウム」を開催し広く学内外の参加者に研究内容について紹介するとともに、平成27年2月13日に宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 設立5周年記念シンポジウムを開催し、その中でサブプロジェクトの研究成果について発表した。

引き続き「宮崎大学における研究戦略」に基づき、地域をはじめ広く社会の発展に貢献するための研究活動を推進していく必要がある。

③研究活動の質保証の仕組み

本研究科の研究活動は、宮崎大学における研究戦略及び中期目標・中期計画に基づく年度計画に応じて実施のうえ、研究活動の状況、研究活動の支援、研究活動の推進等について、運営委員会において適宜検証し、問題点があれば速やかに改善に向けて検討する体制が整備されている。

(資料 16)

「医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクト」－動物実験の有効活用を核とした基礎・橋渡し・臨床研究のスパイラル展開によるヒト・動物疾患に対する予防・診断・治療法の開発と人材育成－

【本プロジェクトの目的と概要】 ※医学獣医学総合研究科ホームページより抜粋

平成 22 年 4 月に、本学に我が国で初めて設置された医学獣医学総合研究科と連動して、文部科学省特別経費（大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実）のサポートを受けて、宮崎大学医学獣医学総合研究科の研究教育プロジェクトの実施を開始した。

平成 22 年 4 月に医学獣医学総合研究科が設置されたことにより、これまで医学部と農学部獣医学科のそれぞれで行われてきた互いの研究を融合連携させることが容易となり、これまで成しえなかった新たな領域へ研究を展開することが可能となった。特に、動物実験を有効に活用できる研究課題については、飛躍的な発展が望める。そこで、本プロジェクトでは、本学の医学と獣医学において進めてきた研究の中から、本学の地域特性、教育研究実績、社会的緊急性等を踏まえたうえで、医学系と獣医学系の研究者が協働して行う動物実験を核として、両者のこれまでの研究基盤を融合させることによりスパイラルアップ的な新展開を図ることができる研究課題として、以下の 3 課題に焦点を絞り、新たな研究を展開する。さらに、その成果を基にヒト・動物疾病の新規予防・診断・治療法の開発とその開発研究基盤の確立を図る。

（課題 1）医学系・獣医学系の共同取組みによる疾病動物モデルの開発とこれを用いた発症メカニズムの解明及び治療法開発

（課題 2）医学系・獣医学系の両面からのアプローチによる人獣共通感染症対策の確立

（課題 3）医学・獣医学連携による生理活性ペプチド研究からペプチド創薬への展開

具体的には、課題毎に医学系・獣医学系の共同研究プロジェクト（サブプロジェクト）を学内公募し、下記の本 PJ 推進チームによる選考で採択されたサブプロジェクトを実施する（平成 22 年度採択：21 サブプロジェクト、平成 23 年度採択：2 サブプロジェクト）。また、各課題において実践型教育研究を展開し、動物実験カリキュラムの開発と新たな人材育成を行う。

●プロジェクトにおける論文・著書等の研究業績や学会での研究発表での状況

年 度	原著	著書	学会発表	総説	特許出願
平成 22 年度	43	7	79	12	1
平成 23 年度	62	10	112	25	
平成 24 年度	51	3	145	11	
平成 25 年度	58	12	115	12	1

【医学科教員及び獣医学科教員による研究活動状況（科学研究費補助金、受託研究、共同研究）】

＜医学科＞【科学研究費補助金 採択件数】					
	基盤研究 (B)	基盤研究 (C)	挑戦的萌芽研究	若手研究 (B)	研究活動 スタート支援
H22	7	41	7	28	1
H23	7	39	6	21	0
H24	7	47	10	21	1
H25	9	51	12	18	3

＜医学科＞【科学研究費補助金 配分額】 ※金額(単位千円)					
	基盤研究 (B)	基盤研究 (C)	挑戦的萌芽研究	若手研究 (B)	研究活動 スタート支援
H22	40,300	53,430	7,300	43,940	1,638
H23	31,330	62,270	10,660	37,440	0
H24	32,890	82,160	20,020	39,870	1,560
H25	52,260	79,690	18,200	33,670	3,770

＜獣医学科＞【科学研究費補助金 採択件数】						
	基盤研究 (S)	基盤研究 (B)	基盤研究 (C)	挑戦的萌芽研究	若手研究 (B)	研究活動 スタート支援
H22	1		6			
H23	1	2	6	1		
H24		3	4	2	1	
H25		4	5	3		

＜獣医学科＞【科学研究費補助金 配分額】 ※金額(単位千円)						
	基盤研究 (S)	基盤研究 (B)	基盤研究 (C)	挑戦的萌芽研究	若手研究 (B)	研究活動 スタート支援
H22	20,020		9,230			
H23	15,080	13,780	8,060	2,340		
H24		17,810	6,500	3,900	1,170	
H25		19,500	8,450	3,900		

＜医学科＞【受託研究】 ※金額(単位千円)				
	H22	H23	H24	H25
受入件数	15	17	18	20
受入金額	62,848	60,661	83,227	127,156

＜獣医学科＞【受託研究】 ※金額(単位千円)				
	H22	H23	H24	H25
受入件数	13	17	13	13
受入金額	62,367	58,904	43,020	65,891

＜医学科＞【共同研究】 ※金額(単位千円)				
	H22	H23	H24	H25
受入件数	13	12	12	9
受入金額	27,802	26,775	32,121	12,279

＜獣医学科＞【共同研究】 ※金額(単位千円)				
	H22	H23	H24	H25
受入件数	12	6	11	11
受入金額	13,300	7,975	8,870	7,794

第3節. 社会連携・社会貢献活動

1. 自己点検評価

分析項目1. 社会連携・社会貢献活動の状況とその成果

本研究科の社会貢献活動については、設置当時から現在まで、継続して実施している事業も複数存在する。主な活動を以下に示す。

①授業科目の一部である先端的医学獣医学特論においては、医学及び獣医学の分野における著名な講師による最先端のセミナーを実施し、専門分野の知識を深め、研究分野の広がりを実感するとともに、分野ごとの研究の現状と今後の方向性を知ることができる。

②地域住民の健康増進に寄与するために大学開放事業の一環として毎年度の医学部公開講座の実施及び獣医学科においても平成26年度に「獣医師って何する人？～人と動物が健康に暮らせるために～」を実施しており、研究科の教員が講演を行うなど開催に協力している。公開講座は「世界を視野に地域から始めよう」をスローガンとする宮崎大学が、特に重要な事業として取り組んでおり、大学スタッフが地域の方々と直接交流できる貴重な場であると考えている。

③地域における青少年教育の充実として、医学部附属病院においては、中学生及び高校生の職場体験学習を実施しており、研究科の教員が受入れを行っている。近年、受入れの依頼が増加しており、中学生及び高校生の学びの場としての役割を担っている。

④全学的取組の一環として医学部、農学部に協力して包括連携協定を締結している機関と協力し、教育・研究成果の活用及び人材の提供を通じて、地域のニーズに合った取り組みを推進して

いる。

その他にも、様々な社会連携・社会貢献活動の実施に研究科の教員が協力しており、十分に教育・研究成果等を社会へ還元し、産学官連携についても推進しているといえる。以下に年度毎の活動を示す。

開催年度	シンポジウム、セミナー等の名称	開催日
平成 23 年度	【シンポジウム等】 ・国際シンポジウム「国境なき家畜伝染病防疫対策の取り組みー世界の安全・安心のためにー」を開催に協力した。国内外の研究者のほか、文部科学省や宮崎県、本学関係者など約260人が参加した。	1月20日
	【産学官連携の推進状況】 ・産業動物防疫に関する教育・研究を推進し、国内外の畜産基盤の安定化に寄与することを目的とした「産業動物防疫リサーチセンター」の設立に協力した。	
平成 24 年度	【シンポジウム等】 ・第2回国際シンポジウム「国境なき家畜伝染病防疫対策の取り組みー口蹄疫、豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の防疫・清浄化ー」の開催に協力した。	9月27日
	・「若手教員を対象とした産業動物獣医学教育研修」の開催に協力した。	9月24日～28日開催
	・鳥インフルエンザシンポジウムの開催に協力した。	10月27日
	【産学官連携の推進状況】 ・北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターとの特定共同研究課題である「人獣共通感染症の教育モデルカリキュラムの策定と共同実施」において、研究科教員が中心となって、シンポジウム、及び合同合宿セミナーを実施し、交流を通じて科学、研究、教育について学生・教員の相互理解を深めた。	
	・宮崎県医療機器産業研究会セミナーの一環である施設見学会・勉強会の実施に研究科教員が協力した。この会は、宮崎県商工観光労働部工業支援課の主催により、東九州メディカルバレー構想において協力体制にある、宮崎県と大分県の企業・団体を対象に行い、総勢36名が参加した。	12月18日
	・セミナー「総合データベースプロジェクト-生命化学研究におけるデータベースの重要性と有効活用-」を科学技術振興機構と共同で開催した。	6月30日～7月1日
平成 25 年度	【シンポジウム等】 ・産業動物リサーチセンター主催第3回宮崎大学家畜伝染病国際シンポジウムの開催に協力した。	7月19日
	・農学部先端研究交流セミナーの開催に協力した。	
	・産業動物防疫リサーチセンター・農学部主催のサテライトシンポジウムの開催に協力した。	7月18日
	・産業動物リサーチセンター主催市民公開講座「海外渡航上の留意点～蹄疫ウィルスを持ち込まないために～」の開催に協力した。	8月1日
	・産業動物防疫リサーチセンター主催パネル展示「口蹄疫からの復興企画展 2013」の開催に協力した。	8月20日～9月1日
	・宮崎大学市民講座「中国におけるH7N9鳥インフルエンザウイルス	5月11日

	の人への感染を受けて」の開催に協力した。	
	・市民講座「やさしく学ぶ 話題の感染症～動物から人へうつる新たな病気～」の開催に協力した。	10月5日
	【産学官連携の推進状況】 ・宮崎県、大分県、企業などと、東九州地域において血液や血管に関する医療機器産業の一層の集積とこの集積を活用した地域活性化を促進することを目的とした「東九州地域医療産業拠点構想（東九州メディカルバレー構想）」の実現に取り組んでいる。	
	・獣医学系教員は農学部、産業動物防疫リサーチセンターとともに、宮崎県農業共済組合との連携した産業動物疾患に関する現状の検証と今後の事故対策を検討するため、県内の農場の検体の採材と検査、分析等を行う事により、事故発生原因の追及と対策のための研究を進めることを目的とした共同研究を実施した。	

本研究科の社会連携・社会貢献の推進のための企画・立案については、医学系及び獣医学系の教授を構成員とする医学獣医学総合研究科運営委員会で定期的に審議を行っている。

また、宮崎大学の中期目標・中期計画に基づく年度計画に応じて実施のうえ、社会貢献・社会連携活動の状況・推進等について、運営委員会において適宜検証し、問題点があれば改善に向けて検討する体制が整備されている。

今後は、過去の実績をさらに活かし、より一層地域貢献活動に取り組む必要がある。

第4節. 国際化活動

1. 自己点検評価

分析項目 1. 国際化活動の状況とその成果

本研究科においては、毎年度、シンポジウム、市民講座を通じて国際化活動を継続的に推進している。以下に年度毎の活動を示す。

開催年度	シンポジウム、セミナー等の名称	開催日
平成23年度	第1回国際シンポジウム「国境なき家畜伝染病の防疫対策の取り組み」 (産業物防疫リサーチセンター主催・宮崎県及び JICA との共催)	1月20日
平成24年度	第2回国際シンポジウム「国境なき家畜伝染病の防疫対策の取り組み」 (産業物防疫リサーチセンター主催)	9月27日
平成25年度	第3回宮崎大学家畜伝染病国際シンポジウム (産業動物防疫リサーチセンター主催)	7月19日
	市民公開講座 「海外渡航上の留意点～口蹄疫ウィルスを持ち込まないために～」 (産業動物防疫リサーチセンター主催)	8月1日

また、国際貢献に関する年度毎の取組を以下の一覧のとおり示す。

実施年度	国際貢献に関する取組
平成23年度	1) 全北大学校（韓国）から教授ら4名が本学を訪問し、国内外の防疫体制強化及び世界に通用する産業動物伝染病防疫の専門家育成の面で連携を進めていくことに合意した。 2) ハノイ農業大学（ベトナム）設立55周年記念大会に出席した。 3) チェラロンコーン大学から2名、ハノイ農業大学から2名が研究科に入学した。また、ハノイ農業大学とは共同研究を実施している。
平成24年度	1) プトラ大学（マレーシア）との大学間交流協定に向けて、研究科教員が中心

	<p>となって相互に協議を行い、協定を締結することがそれぞれの大学で承認された。</p> <p>2) ミャンマーの獣医系大学と医学系大学との大学間交流協定の締結に研究科教員が中心となって取り組んだ。ミャンマーの場合、同国保健省と協定を締結すると、ミャンマー国内全ての医学系大学と大学間協定を締結したとみなされるため、医学系に関しては同国保健省と締結し、交流が開始された。獣医系大学は締結に向けて交渉中である。</p> <p>3) 産業動物防疫リサーチセンターと医学獣医学総合研究科が協同で、JICA課題別研修「口蹄疫防疫対策上級専門家育成コース」（カンボジア、ミャンマー、タイ、ウルグアイ、ベトナムから8名の研修員が参加）を開催した。</p> <p>4) ウルグアイ共和国大学（ウルグアイ）とは、共同研究の申請や大学間協定締結に向けた手続きを進めている。</p> <p>5) JICA技術支援の一環であるタイバック大学（ベトナム）機能強化プロジェクトの国内支援委員を研究科教員が務めており、タイバック大学からJICA研修として1名を2週間受け入れた。また、鶏病に関する研究を目的に、短期専門家として研究科教員1名をタイバック大学に派遣した。</p>
平成25年度	<p>1) JICAの研修生（タイ、ブラジルなど1名）の受け入れに協力した。</p> <p>2) 平成25年度JICA 課題別研修「口蹄疫防疫対策上級専門家育成」研修を平成25年8月26日～9月19日の日程で実施し、5ヶ国7名の専門家が参加した。</p>

さらに、アジア諸国を始めとする海外の協定校との活動、研究者の交流を以下の一覧のとおり行い充実を図っている。

実施年度	協定校との活動、研究者の交流活動
平成 23 年度	1) ハノイ農業大学設立55周年記念大会に本研究科教員が出席した。同大学からは2名が本研究科に入学しており、また、本研究科教員と共同研究を実施している。
平成 24 年度	<p>1) 全北大学校獣医学部との留学生交換研修の取組に協力した。</p> <p>2) カンザス州立大学（アメリカ）との大学間交流協定の締結及びカンザス州立大学の教授による記念講演会の開催に協力した。</p> <p>3) チュラロンコン大学（タイ）とジステンパーに関する共同研究など、協定校との共同研究を実施した。</p> <p>4) ハノイ農業大学（ベトナム）から医学獣医学総合研究科に大学院生1名が入学した。また、平成25年3月に、ハノイ農業大学の学長、獣医学部長、副学部長2名、国際交流委員を含む7名が宮崎大学を表敬訪問した。</p>
平成 25 年度	1) 宮崎大学市民講座「中国におけるH7N9鳥インフルエンザウイルスの人への感染を受けて」を開催し、鳥インフルエンザの特徴や基本的な対処法に関する情報を発信した。（5月11日）

この他の取組みとして、本研究科においては、過去の様々な教育、研究等の実施状況を基に検討のうえ「留学生に対する授業実施方法について」の申し合わせを作成し、授業を行う教員に配付するなどして周知を図り、留学生に対する教育の質の向上に努め国際化に対応している。

加えて、外国人の学生、社会人及び研究者の受入を促進するために、結果は不採択ではあったが、国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムに積極的に応募したり、JICA が実施するアフガニスタン「未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト（PEACE）」による外国人留学生の受け入れが平成26年度からの開始に伴い、本学でも4名の留学生を受入れるなど、国際化に向けた取組みを推進している。

また、国際活動を支える組織体制の整備及び強化として、外国人学生が本研究科において修学

する上での様々な要望等に対応し、サービスの質の向上を1つの目的として、平成26年4月に清武国際交流室の立上げを行った。

第6節. 管理運営体制及びその他

1. 自己点検評価

分析項目1. 管理運営体制及びその他の状況

本研究科の重要事項を審議するため、独自の研究科委員会及び運営委員会を置くとともに、本研究科長及び副研究科長を各1名、各コースにコース長を配置し、その管理運営に当たっている。

なお、研究科長及び副研究科長は、研究科委員会の議に基づき選出し、各コース長は各コースを担当する専任教員の中から選出している。

運営委員会は平成25年度までは月に2回、平成26年度からは月に1回のペースで開催しているが、検討事項が発生した場合はその都度開催し、様々な事項について審議し問題解決に努めている。

さらに、平成26年度から修士課程を設置したことから構成員を増員し運営及び管理組織の強化を図った。

【運営委員会規定（抜粋）】

（審議事項）

第2条委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 研究科の教員人事に関する事項
- (2) 研究科の教務及び学生に関する事項
- (3) 学位審査、学位授与に関する事項
- (4) 研究科の入学、転入学、転教育コースに関する事項
- (5) 研究科の予算に関する事項
- (6) 研究科の将来構想に関する事項
- (7) 研究科のFDに関する事項
- (8) 研究科委員会から審議を付託された事項
- (9) その他委員会が必要とする事項

第5章. 設置又は改組による成果

学内的には、本研究科の特徴として国内で唯一の完全に医学と獣医学とが融合した研究科ということから、その特色を活かした教育・研究、社会貢献・国際貢献活動を行うために、それぞれに属する教員の連携が必須であり、ファカルティ・ディベロップメント(互いの研究分野の発表)、シンポジウムの開催における教員の協力等を通して、教員間及び職員間の連携が強化されたことがあげられる。

その他、特に研究面においては、平成22年4月に医学獣医学総合研究科が設置されたことにより、これまで医学部と農学部獣医学科のそれぞれで行われてきた互いの研究を融合連携させることが容易となり、これまで成しえなかった新たな領域へ研究を展開することが可能となったことがあげられる。